

<あとがき>

2016年度も核軍縮をめぐり、様々な動きがあり、情勢はさらに複雑になったと言えるだろう。明るい兆しとしては、核兵器禁止に関する交渉がニューヨークで始まったことであるが、予想されていた通り核兵器を保有する国々は参加せず、日本を含め、いわゆる「核の傘」の下にいる国々のほとんども交渉には参加していない。このままでは、仮に条約が成立した場合でも、それが果たしてどれだけ効果があるのか、あるいはこの交渉が核軍縮の速やかな進展を望む国々と、核兵器に依存する安全保障政策を肯定する国々との間の溝をより深める結果につながらないのか、様々な懸念の声があることも否定できない。

また、アメリカの「トランプ・ショック」はオバマ前大統領の「核兵器のない世界」構想を否定するだけではなく、アメリカのみならず、世界的に核軍縮の停滞、さらには逆行を予感させるものであった。さらに、北朝鮮による核兵器およびその運搬手段の開発は継続しており、合意に達したはずのイランの核開発問題も、トランプ新政権の下でどのような展開になるのか懸念される場所である。しかし、同時にトランプ新大統領は、ロシアとの関係改善や北朝鮮との対話の再開への意欲も垣間見せており、状況が好転する可能性もないわけではない。

このような厳しい状況を見据えて、被爆地ナガサキから核兵器廃絶を求める声がより一段と高まっているように感じているのは私だけではないだろう。その被爆地からの「思い」を具体的な政策提言として、どうすれば核兵器による安全保障を重視するような人々に対しても説得力を持つように提示できるのか、RECNAに課せられた責務の重さを改めて再確認させられた2016年度であった。

広瀬 訓 (RECNA 副センター長)

長崎大学核兵器廃絶研究センター年報2016

2017年4月30日発行

---

発行所 長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)  
〒852-8521 長崎市文教町1-14  
電話: 095-819-2164 FAX: 095-819-2165  
E-Mail : recna\_staff@ml.nagasaki-u.ac.jp  
<http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

印刷所 株式会社インテックス  
〒850-0046 長崎市幸町6-3  
電話 : 095-826-2200